

# 武生中心市街地地区

(福井県 越前市)

- 計画期間 平成20年度～平成24年度
- 面積 556 ha
- 交付対象事業費 2,447 百万円
- 市人口 83,617 人 (H26.4.1 現在)  
(地区内人口 18,032 人)

## ポイント

地域固有の歴史や文化と人々の生活が密接に結びついた、賑わいと魅力のある「まちの顔」の形成を住民等との協働により進める。

## 地区概要

本地区内には、越前国府の時代から栄えてきた歴史を物語る古い町家や路地、寺社群等の歴史文化資源が数多く見られるとともに、周辺市町の中心地としての商業・業務機能、交通結節機能、行政機能等の各種都市機能がコンパクトに集積しており、「まちの顔」とも言うべき地区となっている。

## 目標

まちなかに集積している都市ストックを活用し、「住む人、訪れる人、活動する人」を増やす取り組みを積極的に推進することによって、「越前国府として栄えた歴史と文化が薫る、賑わいと魅力のあるまち」の再生を目指す。

## 指標

まちなかに居住促進による人口減少の食い止め、まちなかを歩行する観光客等の増加、空き家の活用推進を目標とした。

| 指標           | 単位    | 従前値   |      | 目標値   |      |
|--------------|-------|-------|------|-------|------|
|              |       |       | 基準年度 |       | 基準年度 |
| 中心市街地人口      | (人/年) | 6,320 | H19  | 6,450 | H24  |
| 中心市街地の休日歩行者数 | (人/年) | 994   | H19  | 1,300 | H24  |
| 中心市街地の空き家数   | (件/年) | 221   | H19  | 220   | H24  |

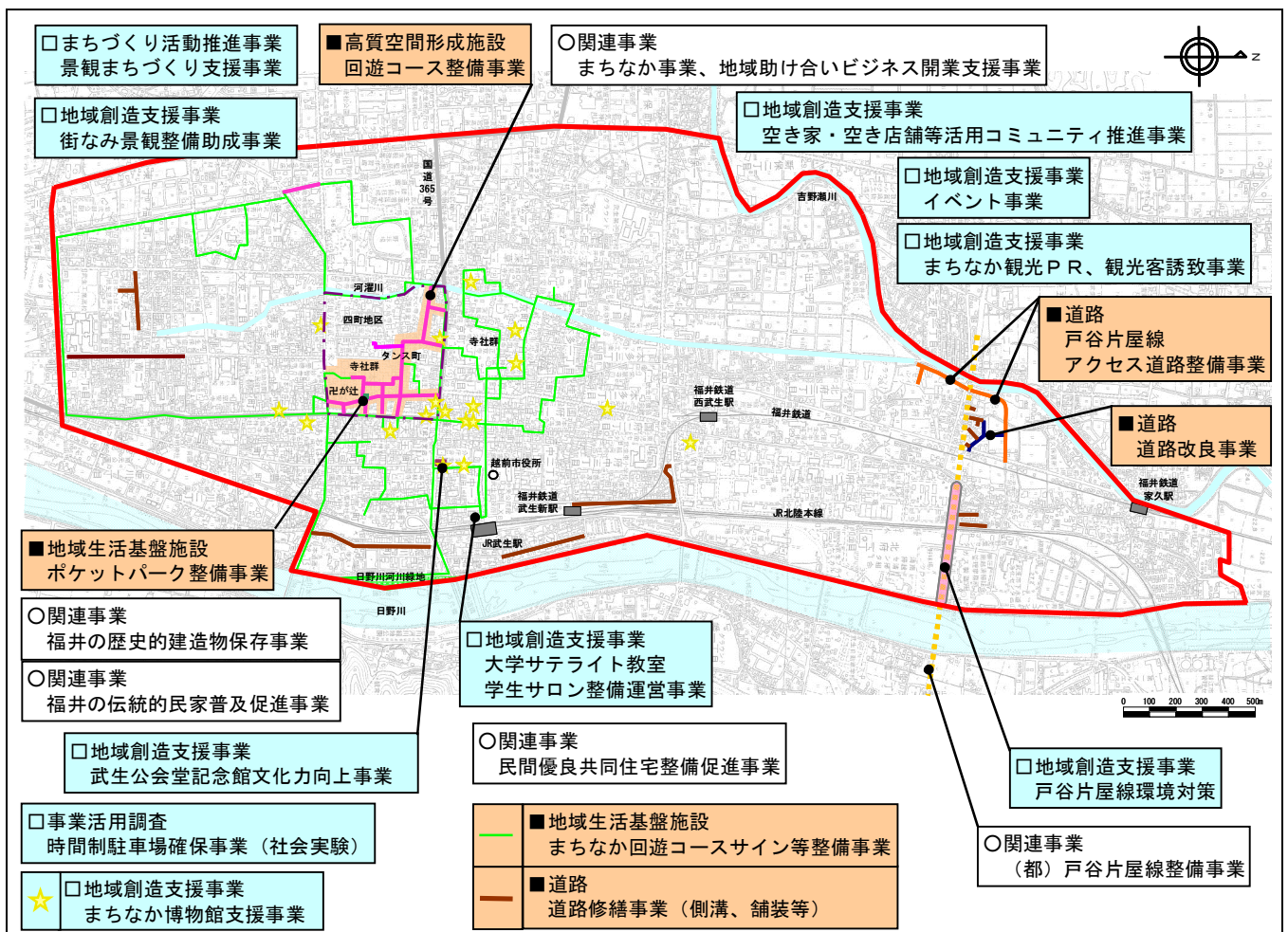
## 事業内容

基幹事業 (1,950百万円)

道路 (整備: 3路線、延長580m 改良: 15路線、延長2,435m)、地域生活基盤施設 (ポケットパーク、回遊コースサイン等)、高質空間形成施設 (回遊コース整備)

提案事業 (497百万円)

地域創造支援事業 (修景助成、活動助成、観光PR、環境対策等)、事業活用調査 (時間制駐車場確保 (社会実験))、まちづくり活動推進事業 (景観活動団体支援)



## 地区の現況と課題

本地区は奈良時代に国府がおかれ、越前地方の中心地として栄えた歴史のあるまちである。しかし、中心市街地では車社会への対応が遅れていることから、モータリゼーションの進展に伴う来街者の減少、商業・業務機能や居住者等の郊外転出、低未利用地の増加など、活気や賑わいの低下が年々進んでいる。また、中心市街地にアクセスしやすい道路網や観光客等が利用しやすい駐車場などが不足しており、来訪者を迎えるための基盤整備も課題となっている。

## 提案事業の特徴

### 街なみ景観整備助成事業

四町地区のまちなか回遊コース沿道の住民が、景観協定に基づいて自主的に実施する建築物の景観整備に対する助成を行う。

### 景観まちづくり支援事業

越前市住みよいまちづくり推進条例に定める地域街づくり推進団体に認定された団体が行う自主的な景観ルールの検討に係る調査を行う場合等に費用の一部を助成する。

### 時間制駐車場確保事業（社会実験）

来訪者が利用しやすい駐車場の確保に向け、中心市街地の空地を活用した時間制駐車場を供給し、その効果を検証する。

### まちなか博物館支援事業

中心市街地において指定した「まちなか博物館」のPRと同博物館を巡るイベントの開催を支援することにより、中心市街地への誘客を図る。



旧が辻ポケットパークと石畳舗装、修景整備された民家



四町まちづくり協議会の取組み  
タンス町屋台祭り



行灯街道



花嫁行列



人形の再現（旧が辻）

## まちづくりの効果、持続的取り組み

まちなか回遊ルート沿線の四町地区においては、伝統的な町屋様式の住宅等が多く、本市を代表する景観が形成されていることから、地区住民が主体となってまちづくり計画を定め、協定を締結し、住民主体による景観づくりを行っている。市は協定区域を中心に、景観に配慮した舗装やポケットパーク整備を行うとともに、協定に沿った建物等の修景工事に対する助成を行っている。また、地区住民はまちづくり計画の基本方針に基づく活動や、整備されたポケットパーク等において定期的なイベントを行うなど、賑わいの創出にも寄与している。

平成25年度には、四町地区のこれまでの活動を受け、市景観条例に基づく景観形成地区への指定を行っている。

## 奈良俊幸 越前市長のコメント

古い歴史を誇る四町地区には、町屋や蔵、寺社群が集積し、越前市を代表する伝統的な景観が残っています。四町まちづくり協議会は、本市の中心市街地活性化の先導的な役割を担っており、地区住民が主体的に行うルールづくりの支援や、まちなかに配慮した空間整備（舗装等）、景観に配慮した来訪者用のサイン設置など、行政も積極的な支援を行い、官民協働で地区の景観形成に取り組んでまいりました。これまでの取り組みを高く評価いただいたことを大変嬉しく思い、今後も引き続き、市民との協働によるまちづくりを推進し、本市固有の景観づくりを進めてまいります。

## 四町まちづくり協議会 村口会長のコメント

平成9年に誕生した本協議会は、急激な地域の人口減少に危機感を抱いた住民が手を取り合い、かつての賑わいを取り戻すべく活動を行ってまいりました。平成20年に街づくり推進団体の認定を受けてからは、それぞれに行ってきた活動を四町一体となり、地域住民が話し合っただけで定めた計画に基づいて、伝統あるまちなみを守り、育む活動を進めてまいりました。本協議会の活動に対してこのような評価を頂いたことは、まちづくりに取り組む一住民として喜びと重責を感じずにはおられず、今後も伝統あるまちなみを守っていくため、更なる取り組みに努力していく所存でございます。

## 四町まちづくり協議会前会長 関氏のコメント

私たち四町地区は、平成20年4月に市の「地域街づくり推進団体」の認定を頂いて以来、住民一体となって行政のご指導を仰ぎながら、「歴史と伝統に彩られた住みよいまちづくり」を目指してまいりました。「美しく、風格あるまち」を後世に引き継ぐという責務を求められているなか、この度の受賞は大変誇らしく感じており、これを契機に越前市の「景観形成地区」の名に恥じないよう、一層の取り組みに対する決意を新たにしているところであります。